

# ドラゴンの階段 第7回

《エッセイ版》 佐藤 洋祐

果を追求。理研側はその答えを用意しておらずスピードだけを重視して速いレーシングカーを作ることしか考えていなかった…その後開発チームはレーシングドライバーしか運転できないレーシングカーではなく誰でも運転できる乗り心地が良く燃費もよい高級セダンを狙ったのだそうです。

スパコン 「富岳」世界一 8年ぶりの首位奪還(8/12NEW門)  
11年前に注目されたあのセリフ「2位じゃだめなんですか」  
11年前、蓮舫氏ら仕分け人側は「1000億円を超える国家予算を投入してスパコンを開発して仮に計算速度が1位となったとして国民は何を得られるのか」と予算の費用対効

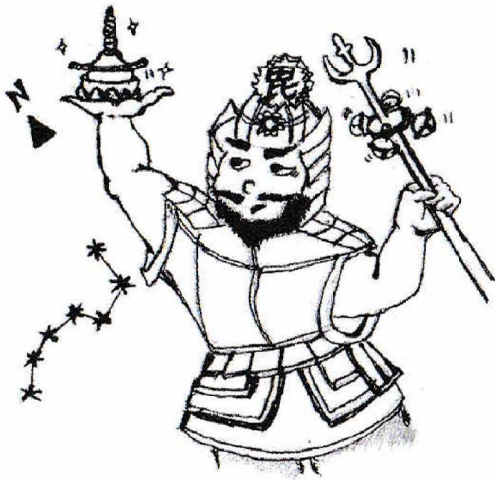
土壌にいる「バシラス属」の細菌は休眠した胞子の状態でコンクリートに混ぜ込んで、ひびができると水や酸素などが入り込んで細菌が活性化し、炭酸カルシウムを作ってひびを埋めるといふもの。炭酸カルシウムを作る細菌でもって土壌を固めて液状化を防ぐ研究も進んでいるようです。

「心技体の磨き方③」さらば、逸(はやく)る心!」皆様、こんにちは!暑い中にも、秋は夜霧や朝露に交じって気配を垣間見せますね。

「心技体の磨き方」、第3話目とても難しい内容です。頭で知る事はとても簡単でも、それを実践することは難しく、私もいつもこれを忘れてしまいがちです。今回は早く上達したい、早く結果を出して楽になりたい、という、心の「逸り」「焦り」を捨てる、というお話です。

とはいえ、早く上手になりたい!と思っ、たくさん練習したりそれに時間を費やすことは、上達の近道なんじゃないの?とおっしゃるかと思いますが、その通りなんですけれども、そこに逸る心は必要ない、いえ、もっとはっきり言いますと、ない方がずっといいですね。

例えば、赤ちゃんは、「早く大きくなりたい!」という焦る心で、言葉や生活習慣、文化といったものの膨大な内容を学びますでしょうか?そんな気持ちがなくなると、彼らは成長と共に、生きるために必要なそれらのツールを自然に身に付けていきます。日本各地に点在する樹齢千年を超える杉の木たちはどうでしょう?逸る気持ちにまかせて成長したら、果たして彼らはあそこまで大きくなれたでしょうか。むしろ上方への成長を早めるために植林された木たちは、昨今の強力な台風にも耐えられずたやすく薙ぎ倒されてしまっています。



挿絵 TAKAKO

本屋さん、何かを学ぶための「初心者からはじめる○○」といった、様々な習い事の教則本がありますね。例えばピアノを始めよう、という方のためには、バイエルとかブルグミユラーとか、そういう本がたくさんあって、そこに載った小さな易しい課題を一つずつこなしていくと、自然とある上達段階まで達するようになっていきますね。そして、着実に上達していく方の傾向というか、行動パターンを見ていると、きつとそれが楽しくて仕方ないのでしょうか、彼らは同じ小曲、出来るようになった課題をいつまでも、何回もやっているんですね。この時、彼らの心の中に、早く上達したい、次の課程に進みたい、という焦る心がないんです、それを演奏する楽しさ、また打鍵の肉体的快感に浸っている、とてもいいまじょうか。逆に、「自分はこれができるようになったな」と頭で判断して、先に先に進もうとしてしまうケースでは、どこかの段階で行き詰った時、いったいどこで自分ができなくなったのか、わからなくなってしまう。それでまた新しい別の本を買ってきて、同じように次々に簡単な課程を進んで、またどこかでつまずく、ということを繰り返してしまっている傾向があります。出来るようになった喜び、そして体で感じる快感、充実感を持てるかどうか、というのは、上達を続けられるかどうかの境目になっているのかも知れません。

「早く上達したい、結果を出したい」、そのお気持ち、痛いほどわかります。なぜなら、私もだから!でもその願望のエネルギーを、自分の体や意識の、「オートパイロットモード(自動運転モード)」に入るとスイッチ、それを押すと、楽しくても練習しちゃう、寝る時間を削ってでもやりたくなっちゃうその「スイッチ探し」に充ててみてはどうでしょう?習い事の上達、「道」の習得の道程は、赤ちゃんや草木の成長と同様に「自然の摂理」に従っているんですね。これってとても素敵なことではありませんか?

佐藤 洋祐(サトウ ヨウスケ)

ジャズミュージシャン。サクソフォーン奏者としてグラミー賞を2度受賞、ノミネートは4度。海外での活躍で世界的に高い評価を得た。その後2015年末千葉県に住まいを移し現在に至る。2019年より日本の歌を唄うシンガーとしても活動を開始。